

2nd 10

[セカンド]
October
2013
Vol.79
680yen

Brings world of style and trend into daily fashion

洒脱な大人は
この秋、ヨーロッパ気分。



The Next Trend
found in

Europe

2013年10月号 毎月16日発行 毎月16日発売 第6巻第10号通巻71号

CONTENTS

10

【セカンド】
October 2013 Vol.79



Cover Design
R.Kaneko 金子りえ
Photo
S.Saito 斎藤優



026

The Next Trend found in Europe

洒脱な大人はこの秋、ヨーロッパ気分。

今月号はヨーロッパ大特集。この秋冬シーズンに登場する、要注目アイテムのモノ作りの裏側に迫り、その着こなし方も紹介します。ボクラとまったく違う目線で着こなす彼らのセンスを、ボクラのスタイルに取り込みましょう。また、現地のおもしろいショップや世界遺産、さらに食べ物も網羅していますので、ぜひ現地の空気感も味わってください。



028 絶海の孤島でひたむきに編み上げられる
世界で一番有名なセーターの話。

039 イタリアが誇るBIG3!
パンツ専門ブランドを徹底比較。

046 ミラノのショップスタッフは
カレッジスウェットをこう着こなす!

048 靴好きを自認するのなら
一度は、その“聖地”へ。

053 ひと味違う! ヨーロッパ流の迷彩術。

056 ブルゾン人気再燃。
その火付け役は英国の雄、バラクータ。

058 欧州ファッション事情通が語る今季のトレンド予測。

062 いまボクラが気になる欧州プロダクツ。

062 ライフスタイルまでもアメリカ色に染まったイタリアン・デニムブランド。

068 次に来るマテリアルは、ずばりドネガルツイードだと思ふ。

072 ユーロユニフォームをモチーフにアップデート。

074 アイルランドの伝統を足元から体現する。
コーデに変化を与えるネオンカラーコート。

075 ロング丈バブアーはステンカラーコート感覚で。

076 アメリカ面なのに上品なのがフランスブランド。

078 パリで創造する、ということ。

079 持ち運びに便利すぎる、わずか120グラムの薄軽コート。
アメリカンブーツの雄から上品なヨーロッパデザイン登場。
ジェントルマン御用達、自転車専用バッグをハラコに。

080 イタリアンコードバンなら多色展開も可能。

081 いま狙い目なのはUKサドルレザー。

082 旬な欧州カジュアル靴が一堂に会する名店。

083 祝! 80周年

Plein LACOSTE ラコステがいっぱい。



SUMPLE ITEM!



まるで
ヴィンテージの
ような加工!



この2アイテムはまるでヴィンテージのような雰囲気を醸し出しているが、れっきとした新品。ブルーブランケットの加工モデルだ。リアルな使用感やリベアなど、高い技術で再現されている。残念ながらこちらは現在販売はしていないという。ぜひ再販を!



ウエスタンシャツも
イタリアンな
シルエットに!

シャツの本場、イタリアだけあって、シルエットにはかなりこだわった。細身なので着込んだ時の色落ちにも期待したい。2万9400円



右/アジア人が働く工場が多い中、ブルーブランケットではすべて地元のイタリア人が働いている
左上/生地加工を行う工場です。加工を施してくれたアントニオ。回転するブラシで、デニムの色を落としていく。左下/ファクトリーで製品をチェックするアントニオ。ちなみに工場のミシンのほとんどが日本製

イタリア製デッド
ストックのキャンバス
ケースが付属する



ブルーブランケットの定番モデルで、きれいなスリムストレートのシルエットを誇る「P01」。腰でピタッと止まり、膝下までスッキリとおさまる穿き心地が特徴的。3万4650円



ジーンズと同じ
13オンスの
生地を採用!

バイクやクルマを自分でメンテナンスするため、ジーンズ生地を使ったエプロンもリリースしている。1万6800円



クラシカルな
デニムJKTを
イタリア的に解釈!

ヴィンテージのディテールを踏襲しつつも、イタリアンクロージングならではの絞られた美しいシルエットを実現している。5万2500円



エレガントなアメリカン・クロージングが生まれる MADE IN ITALYの現場。

岡山・児島のデニム生地を使ったブルーブランケットのアイテムはイタリアのベスカーラの縫製工場生産される。そこで生み出されていく、同ブランドの製品はイタリア・メイドならではの上品な佇まいが印象的だ。

イタリア製ならではの
エレガントな佇まい



超長綿を使ったイタリアンコットンを使用したB.D.シャツ。肉厚ながらエレガントな質感を醸す。3万5700円

The Next Trend found in Europe.

Ireland / Italy / France / United Kingdom / etc...

趣味でバンドを組んでいるアントニオはヴィンテージのギブソンSGをコレクションしている。デニムと同じで塗装や木目の経年変化が好きなのだとか



愛車は1969年式シボレー エルカミーノ。アメリカ車を修理するファクトリーは少なく基本は自分でメンテをするという。もちろんコンディションも抜群

フェラーリよりも目立つぜ!



資料用としてのプリントTシャツも、大量にストックしている。'80年代のモーターサイクル系のプリントが多くみられた



事務所にあるコーヒーテーブルは、モンゴメリワードやシアーズのヴィンテージカタログを積み上げて天板を設置している。同ブランドらしいアイデア

テーブルの中には古いクルマのパーツやベルトのパックルなどヴィンテージの金属を集めたものがコレクションされていた



ミュージアムクラスのヴィンテージが眠るブルースランケットのアーカイブ。



コレクションの一つである1901年製のリーバイス501XX。この時代の革パッチは柔らかいため状態のよいまま残っている



1900年代前後のワークウェアブランドの納品書もアーカイブされていた。羽ペンや万年筆で書かれた筆跡が美しい

「たぶん欧州では一番ジーンズを持っているんじゃないかな(笑)」と自負するだけあり、その数と質はハンパではない



正直何本あるかわからないよ。

ローマのレオナルド・ダ・ヴィンチ空港からクルマを東に走らせること約3時間、アドリア海に面したベスカイラという街に彼らは住む。事務所に入ると目に飛び込んできたのは壁を埋め尽くすほどに掛けられた大量のジーンズ。そして写真ですら見たこともないようなヴィンテージデニムなど、ミュージアム級のアイテムがゴロゴロ保管されていた。これらはアントニオが25年の歳月をかけてアメリカ主にL.A.で買い付けてきたものだという。また事務所所内いたるところにヴィンテージブロードワックスが飾られていたり、古い資料本が置かれていたり、彼らの旧きよきアメリカへの憧れが強く伝わ

ってきた。なお彼ら全員がモーターサイクル好きという一面もユニークである。アントニオの旧いトライアンフをはじめ、日本車、ハーレーをカスタムし、海に面した陽気なベスカイラの街を走る彼らの姿は、まさにアメリカ西海岸ノリのモーターサイクルカルチャーを彷彿とさせるのだ。アントニオの半生はジーンズと共に歩んできた。若い頃からアメリカンカルチャーへの憧れがあったため、服の趣味も自然とジーンズなどワークウェアに傾倒していったという。その趣味が高じてイタリアのジーンズ業界に飛び込み、その後、大手デニムブランドの加工や縫製などに携って20年以上ずっと業界で活躍してきたベテランなのだ。そのため、これらのコレクションが礎となっているブループランケットは、まさに彼の人生を凝縮した集大成といえるだろう。

1930年代頃のU.S.Nのデニムブルオーバーシャツも発見。厚みのある生地と細身のシルエットが雰囲気抜群

ジーンズ以外にもコレクション!



炭鉱から発掘した1880年代のワークパンツの欠片のディテールを忠実に再現したブループランケットのオリジナルアイテム



1920年代のE&Hのカバーオール。昔ながらのヘビーオンスデニムのためハッキリとしたタテ落ちが現れている



こちらも機関良好!

アントニオは69年式トライアンフT100が愛車。メインフレームとエンジン以外はすべてカスタムした

これが俺達のスタイルさ!



